

令和元年度業務実績評価結果に対する業務等への反映状況

公立大学法人福井県立大学

分野	評価委員会の提言	業務への反映状況等
新学部・新学科の創設	<ul style="list-style-type: none"> 水産増養殖を学ぶ新学科の創設が福井の水産業の発展など地域貢献につながることを期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> 福井の水産増養殖を担う地元定着人材を養成する「水産増養殖リーダー育成プログラム」の具体化に向け、県水産課や地元養殖事業者等と連携したカリキュラムの編成を進めた。 若狭地域の自治体や水産事業者等が参加する「嶺南地域・福井県立大学 地域振興連携推進会議」の参加団体に地元漁業団体や水産増養殖関連企業等を加えたほか、新学科の教育・研究を周知するシンポジウム等の開催に向け準備を進めた。
	<ul style="list-style-type: none"> 水産増養殖を学ぶ新学科など、新学部・新学科創設の目的を実現するためのロードマップを作成し、各年度の計画を着実に進める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 中期計画で定めた新学部・新学科の創設にあたっては、年次的な進行管理が必要であり、特に令和4年度開設予定の水産増養殖を学ぶ新学科については、予算確保、施設整備、開講科目の調整等、中期計画期間中における各年度の具体的な計画をたてながら進める。
	<ul style="list-style-type: none"> すでに全国で100校を超える大学が看護学の博士課程を設置している中、福井県立大学が看護学の博士課程を設置する意義やどのように特色を出していくか、具体的に検討していくことが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 本県の地域保健・医療・福祉の研究を牽引する人材を育成するため、看護学と社会福祉学を基盤とした大学院博士後期課程設置への変更に向けたWGを立ち上げたほか、研究の向上のためのWGも設置し、これらをもとに、構想や人員の検討、大学院教育の目標と課題の設定、指導教員候補の経歴・業務調査を行っている。
教育	<ul style="list-style-type: none"> 多様な学生の受入れという点において、外国人留学生の割合をさらに高める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 私費外国人留学生の受入れ増加を図るため、以下の取組みを実施した結果、令和3年度特別選抜において令和2年度比+11人の22名が出願し、7名が合格・入学した。 <ol style="list-style-type: none"> 在学している私費外国人留学生が同席し参加者と質疑応答を行う外国人留学生向けオンライン入学説明会を3回開催し、13名が参加した。 全国の日本語学校264校にオンライン入試説明会やオープンキャンパスのチラシ、大学案内等を郵送する等の周知活動を行った。 特別選抜（私費外国人留学生）においてオンライン面接試験を導入した。
	<ul style="list-style-type: none"> 福井県の持続可能性を支えていくためには地域への人材輩出が重要であることから、卒業生の県内就職割合をさらに高める必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 県内就職割合を高めるため、以下の取組みを実施した結果、令和2年度は50.7%（令和元年度:43.9%）となり目標値を達成した。 <ol style="list-style-type: none"> 10～12月にかけて、本学学生の採用実績が多い県内企業14社を招き、各企業の業界状況の説明を行う業界研究会を開催し、延べ174人が参加した。 県内企業に関する情報収集のため、新型コロナウイルスの影響による外出自粛期間中は電話等により収集したほか、7月以降は64社の県内企業を訪問した。
研究・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> ベンチャー企業の設立支援制度を創設したこと、新たな民間企業と連携を図ったことは前向きであり評価できる。引き続き支援を続け、地域貢献に寄与することを期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> 大学発ベンチャー企業創設支援制度を活用し、本学で育成する水稻品種等の種苗販売や商品開発事業を行う会社の設立を支援した。 永平寺町、小浜市、あわら市のほか7市の総合政策所管課を訪問し、本学のシンクタンク事業構想の説明と調査研究の受託について働きかけを行った。
	<ul style="list-style-type: none"> 教員一人当たり著書・論文・特許出願数を増やすことが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 全教職員で問題を共有しそれぞれが目標達成に向け取り組んだ結果、著書数は0.5件（令和元年度：0.3件）、論文・特許数は1.5件（令和元年度：1.2件）となり、目標値を達成した。
	<ul style="list-style-type: none"> 農業の現場では若手の人材確保が問題になっている。創造農学科の多くの学生が現場で実習を行うことにより、県内に就職し、地域に貢献することを期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> 公設試験場の研究員や経営農家、「ふくいの農力アップ！ネットワーク」に参画する実務者等、特任講師33名による授業を、前期はオンライン、後期は対面で実施し、直接的な指導を行うことで、実際の現場や県内で農を取り組む魅力を学生に伝えた。

分野	評価委員会の提言	業務への反映状況等
国際化 情報発信 業務運営	<ul style="list-style-type: none"> 国際化は新型コロナウイルス感染症の影響により今後さらに難しくなっていくことが考えられる。環境変化にどのように対応していくのか検討する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響により海外渡航を中止とした中、以下のとおりオンラインを活用して、協定校をはじめとする海外大学との交流を実施し、学生の語学向上や異文化交流の機会提供を図った。 <ol style="list-style-type: none"> 12月に台湾や中国の協定校をはじめ3つの海外大学とオンライン交流会を開催し、延べ40人が参加した。 学生向けに world café のインストラクターによるオンライン無料英会話レッスンを開催し、延べ330人が受講した。 海外渡航ができないため、2～3月にフリンダーズ大学（オーストラリア）と、3月に高雄科技大学（台湾）との短期語学研修をオンラインで実施し、延べ15人が参加した。
	<ul style="list-style-type: none"> 福井県立大学の起源である福井県農業試験場内の「福井県農業技術員養成課程」設置から100年を迎えるにあたり、ロゴマークを作成し、情報発信を行ったことは評価できる。今後、新学部・新学科の創設を含め、大学の魅力を発信していくことを期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年4月から、大学公式 Twitter および Facebook を立ち上げ、大学ホームページと連携しながら情報発信を行うこととした。 大学100周年ロゴが入った付箋、トートバッグ等を制作し高校生等に配布した。
	<ul style="list-style-type: none"> 勤続年数に制限がなく、福井県立大学において長い期間経験を積むことのできるプロパー職員は必要不可欠であり、採用を決定したことは評価できる。 	<p>—</p>